

## 平成28年度第1回山形県図書館協議会議事概要

1 日時 平成28年9月15日(木) 13:30~15:40

2 場所 「遊学館」2階 チェリア学習室

3 協議(委員の発言、質疑等の概要)

(1)「県立図書館の将来のあり方について」に基づく施策の進捗状況等について

[加藤委員]

① これまで多くの読み聞かせグループ交流・実演会が行われてきたが、ただ集まって実演するだけで質の向上には繋がらなかった。助言指導を仰ぐ識者の報酬確保が難しいなら、参加者全員にコメント用紙を配り、良かった点・悪かった点を記入してもらうようにしたらいい。実演団体にとって自グループの客観的評価を受け止めることは初めての体験になるだろうが、成長をもたらす切っ掛けになる。

(事務局) コメントを書いてもらうようにしたい。

② 中学高校生向けの新刊図書案内を学校図書館にデータ提供する際には、中高生などが本を読みたくなるような取組みに留意してはどうか。例えば、彼らは視覚に訴えるビジュアル面に興味を示す傾向があるので、その点を充実させている科学系の本を紹介してみてもどうか。また、世界の今が分かる本などを手にして学ぶ大切さに気付かせることなども検討してみしてほしい。

(事務局) 中高生世代のティーンズ向けの新刊図書案内を館内で配布していたが、今年度から市町村や学校図書館にもデータ提供するようにした。

最近の科学系の本は、難しい内容をビジュアル面で工夫し、理解しやすくした本も多数出版されているので紹介に向けた検討をしたい。なお、表紙などの掲載は、著作権法の許可が必要となるので、可能な部分での検討としたい。併せて、世界の情勢や課題などを知ることも大事なので、これに関する本の紹介も検討したい。

③ 県立図書館で、県民から寄附を募って購入費に充てる仕組みが取れないか。

(事務局) ありがたい提案ではあるが、例えば県立高校等では以前は保護者にいろいろと寄附をお願いしていたが、これをやめようということになり、苦しいながらも何とかやりくりをしている。本館の資料整備費はかろうじて何とか県立の面目を保てていると考えている。購入費が少ないところを蔵書家(故人)の寄贈図書を受け入れてカバーするなどの努力もしている。

④ 山形国際交流プラザで開催された子育て応援団のイベントに県立図書館で出張展示しているようだが、どのような対応をされたのか。

(事務局) 「子育て応援団すこやか2015」のイベント会場内に県立図書館のコーナーを設け、絵本など約70冊、図書館の利用案内とともに、テーマ別の絵本の案内リストである「絵本の本棚」などを配布した。本の読み聞かせはもとより、恐竜の切り絵やしおり作りなど工作コーナーも配置し、多数の来場者があり盛況だった。子供への本の与え方など様々な相談には、成長に応じてこれまで読んできた本や大好きな本などを個別具体的に聞きながら、出来るだけ丁寧に対応した。

⑤ 県立図書館は地域の課題解決にもっと貢献できるのではないかと考える。資料では民間団体などとの連携事例が多数掲載されているが、ビジネスを立ち上げる場合における支

援など図書館ならではの取組みを展開してほしい。

(事務局) 地域の課題解決に向けては、本の森講座として、消費生活支援センターなどと連携して、若者の一人暮らしに向けた課題や悩みを解決する取組みなども実施しているところである。ビジネス支援ということでは、課題解決型の取組みをしっかりとやっている他の県立図書館などの先進事例を参考にしながら検討していきたい。

現在の状況としては、ビジネス支援の企画展示を実施する際に、関連本の紹介だけではなくて、就職に関しては、ハローワークと連携して就職相談会の紹介や促しを行ったり、開業等に関しては、日本政策金融公庫と連携して、分かり易いパネルやパンフレットを紹介したりしている。農業については、農業支援センターから協力をしてもらっている。具体のプランニングなどについては専門家の対応が間違いないところであり、県立図書館としては「つなぐ」ことはしっかりと対応しているところであり、各団体からも引き続き連携をお願いしたいとの評価を得ている。

#### [鈴木委員]

① 開館日が今後、増えていくことは望ましいことだ。ただ、県立図書館と山形市立図書館は月曜日の休館が一緒であり、月曜日に図書館を利用できず不便と感じている県民がいるはずだ。勤務体系で難しいところがあると思うが、休館日の変更を検討してほしい。

(事務局) 大規模改修に向けて開館日の拡大や休館の曜日設定は検討課題であることは間違いない。今後、検討していく。

② 館内では話題性に富んだ、様々な企画展示を行っており、工夫を凝らしていると感じる。そこで提案だが、「山形の作家」から踏み込んで「山形在住の作家」に対し「影響を与えた本は何か」を聞き出し、作家の脳内図書館と銘打った企画展示を行ってみてはどうか。従来展示をちょっとした工夫で更に中身を充実させることが出来る。

(事務局) プロの方々に依頼するための謝礼の予算がないので憚られるが、何とかチャレンジしてみたい。

③ 図書購入予算が減っているのは残念だ。知の拠点にふさわしい予算配分がなされていない現状は大いに問題がある。図書館予算の増額の必要性を県当局に理解してもらえよう、きちっと予算要求をするべきだ。

(事務局) 本館の図書購入費は全国で最下位ランクである。また、大規模改修に際しては開架スペースが拡大することに伴って、鮮度の高い資料を数多く準備する必要がある。ついては、計画的、段階的に蔵書数を増やすことが急務となっており、そのための予算要求をしっかりとやっていく。

#### [松田委員]

① 施策の主要項目及び取組実施状況は資料としてはきちっとまとめられているが平板の印象を受ける。取組実施状況に対し、主観的でも良いから職員による自己評価を示したらよい。(例えば特に優れたものには☆印を表示するなど)

(事務局) 了解した。最近、本館と市町村図書館との結びつきが強まり信頼関係も深まっている。また地域が学校支援を行う視点に立脚して高校側にアプローチしている取組みなども異色のものになっている。こうした部分を評価に盛り込んでいきたい。

② 団塊の世代は自らの知識を深めよう広めようとする傾向が他の年代と比べると突出

しているが、地域の様々な場面・ステージで活躍している彼らの知的生産活動を図書館が公民館等と協働して支援する取組みを検討してはどうか。例えばあるテーマで生涯学習講座を企画するとして、団塊の世代の方々は図書館で文献を調べたり議論を深めたりしてまとめたものを公民館で地域住民に発表するというやり方だ。

(事務局) 団塊の世代にスポットを当てて様々な講座を行っており、参加者から好評を博している。公民館等との協働方式は良いヒントをいただいた。

③ サービス評価指標で延来館者数が増加しているのは喜ばしいことだが、延べ人数は評価の際に数字の重みが薄れることも事実。実際に市民県民が何人来ているのかを調べ、未来館者数はこれだけいるから、来館してもらえるような確な施策を講じるように考えてみてはいかがか。

(事務局) これまで以上に、新規の利用者の確保に努めていきたい。

#### [沼野委員長]

① 施策の主要項目及び取組実施状況は資料として良くまとめられているが、数値目標を取り入れるなり評価方法を工夫してみたい。

(事務局) 了解した。

② 現在、地域課題解決支援の取組みとして県立図書館は関係機関と連携して企画展示をしたり、イベントを行ったりしているが、様々な角度から取り上げられテーマ化される地域課題については解決に向けて県立図書館は知の拠点として関わってほしい。例えば山形県から県外に若者が流出してしまう問題について課題研究を進めるグループがいたら、県立図書館は積極的な支援に努め、必要資料を提案するなどの関わりを見せてほしい。

(事務局) 了解した。

## 4 報告

### (1) 県立図書館活性化基本計画の進捗状況について

(生涯学習振興室長) 公募型簡易プロポーザルによる設計業者の選定が行われ、最優秀者として株式会社羽田設計事務所に決定した。今後、大規模改修に向け、29年度にかけて基本設計と実施設計を行っていくことになる。

(資料に基づく説明があり、特に質問はなかった)

### (2) 平成28年度北日本図書館大会山形大会の実施について

(事務局) 「地域を元気にするため図書館ができること」をテーマにシンポジウムなどが行われ、大勢の参加者は「公共図書館から地域住民・地域社会へのアプローチ」「公共図書館のアウトリーチ活動」に関する、先駆的な活動に対する理解を深めるなど、非常に有意義な大会だった。

(資料に基づく説明があり、特に質問はなかった)